

子どもの発想に沿う
環境作り

影遊びができるよ！

社会福祉法人芽豆羅の里 芽豆羅保育園（大分県宇佐市）[5歳]

<きっかけ>

図書館の図鑑を見た子どもたちが「この太陽は黒いよ！」と驚き、「なぜ？」と疑問をもった。このことをきっかけに、園で手作りした可動式のスクリーンを使って影絵遊びをした。



事例1 「壊れたのかな？」（スクリーンを窓際から保育室の真ん中に移動する）

①スクリーンを窓際に置き、影絵遊びをする。

子どもたちが手で形を表したり体を映したり、身近な物を映したりする。持っている物をスクリーンに近付いたり、離したりして大きさの変化を楽しむ。



②保育者がスクリーンを保育室中央に動かす。

子どもたちは「あれっ！映らないよ」「本当や！壊れたのかな？」「色が違うけど、少し映ってるよ」「でも、さっきの方がよく見えたよな！」と言う。そこで、保育者が「スクリーンに、影が何故できないの？」と聞くと、「影が恥ずかしいって言いよんのやない？だから、出てこんのよ」「こっちは暗いから、見にくいんじゃない？」（明るい場所を指す）「本当や！向こうは、明るかったもんな！」「でも、こっちだって電気がついてるよ」「そうだね」と思い思いに話す。
「同じお部屋の中なのに、何が違うのだろうか？」と保育者が言うと、子どもたちは保育室を見回して、「あっちは、太陽がピカピカと光っているやない！こっちは日陰だよ。あっちは暖かったし」「本当や！こっちは冷たいなあ」（床を触りながら）「これの後ろに太陽がないからだ！」（スクリーンを指さして）「そっか！影は太陽が好きなんや」「やけん、太陽がおらんと影も出てこれんのやね」と話す。

事例2 「影が映らなくなった！」（スクリーンを園庭に置く）

①（朝）園庭のスクリーンに気付き、影絵遊びをする子どもたちがいる。

戸外で伸び伸びと体を動かして、影絵遊びを楽しんでいる。

②（昼）みんなで影絵遊びをする。

影絵遊びを始めた子どもたちは「あれ！影が映らなくなった！！」「太陽の光が当たってないからじゃない？」「でも、太陽は出てるやん」「あっ、太陽は出てるけど、さっきより上に来てるよ！」（太陽を指さす）「太陽がお出かけしてるよ！」「太陽は動くって言うことかー」と話す。

③スクリーンを動かすことに気付く。

保育者が「どうやったら、影が映るのかな？」と言うと、「これを動かしたらいいんじゃない？」「どう動かすの？」「影は太陽が好きやけん、光がある所に動かしたら影が出るんだ！」と話し合い、スクリーンを動かす。「あ！影が映ったよ！」「光が当たったからやな！」と、話し合う。

④（夕方）影絵が話題になり、影ができる所にスクリーンを動かす。

「やっぱり動かさんとできんな」「よし！動かそう！」（スクリーンを動かす）

「ほら！やっぱり、できた！」「太陽の光が当たってるからや！」と話す。

「あっちに太陽が動いたから、影はこっちにできるんやなあ！」スクリーンと、影・太陽を指さして言う。



ポイント

黒い太陽の写真に驚いたことがきっかけになり、保育者が教材「スクリーン」に着目しています。この教材は、子どもたちが操作できるので、確かめたり工夫したりすることができます。ひとりでは動かせないのも、協同的な学びにつながっています。この環境により、太陽の位置、影の向き、影のでき方、影の濃淡、時刻（朝、日中、夕刻）に気付いたり考えを巡らしたりする体験が引き出され、「科学する心」が育まれています。